全国7会場で開催

手帳100冊書き比べ総選挙

手帳とそれに関連する文具・デジタルガジェット等の愛好家の集まり「日本手帖の会」が主催する手帳イベント「手帳100冊！書き比べ総選挙」（手帳総選挙）が、10月9、10日に神戸・三宮のジュンク堂書店4階「NAGASAWA Journal Style&Chair Factory」で開催された。

会場には多種多様な手帳の中から厳選した111冊（50社）の手帳が展示され、来場者は見るだけでなく、手に取り自由に試し書きした。また、展示された手帳の中から気になった手帳を選ぶ人気投票も実施した。

神戸・ナガサワ文具センターでの手帳総選挙

来年度の手帳購入の参考にしようと、1冊ずつ手に取り、編集内容やサイズ感、手触りを確かめながら、持参した筆記具で試し書きする人などが多く見受けられた。

手帳総選挙は、手帳新製品が最も盛んに発売される手帳の最盛期（9月から11月）に開催しているもので、第10回目を迎える今回は9月25、26日の横浜を皮切りに神戸、大宮、名古屋、仙台、福岡、東京の全国7会場で開催。

今後の日程と会場は、11月6、7日「仙台ロフト」、11月13、14日「東急ハンズ博多店」、11月27、28日「東急ハンズ銀座店」。

人気投票の結果は、12月19日開催の「手帳収穫祭2021」で発表を予定している。

シヤチハタクラウド「OIN」に登録

SSOの設定作業迅速に

シヤチハタ株式会社（舟橋正剛社長、名古屋市）が提供するクラウド型電子決裁サービス「Shachihata Cloud（シヤチハタクラウド）」は、Okta Japan株式会社（渡邉崇社長、東京都）が提供する、アイデンティティ管理・認証基盤プラットフォーム「Okta Identity Cloud」と事前連携する7200以上のアプリテンプレート群「Okta Integration Network」（OIN）に登録されたと発表した。

「Shachihata Cloud」は、リモートワーク時代のクラウド電子印鑑・電子署名サービス。稟議書や申請書といった社内文書から、見積書や請求書、注文／請書等の取引先との決裁文書にいたるまで様々な文書の押印業務をデジタル化し、時間や場所を問わず簡単かつ安全に電子印鑑・電子署名を行うことができる。

シヤチハタは、電子印鑑システムの市場展開を1995年より行っており、導入数は2021年10月時点で60万件を突破している。

今回、Shachihata CloudがOINに登録されたことにより、Okta Identity CloudをIDaaSとして利用する組織や企業のIT管理者は、Shachihata Cloudとの SAML認証方式を利用したシングルサインオン（SSO）の設定作業を、数クリックで迅速に設定できるようになる。

組織や企業が業務で利用するクラウド型アプリの導入数が増えており、利用者への迅速なアプリ展開と安全なアクセスを提供することがIT管理者に求められている。OINへの登録により、IT管理者はアプリをSSOに追加する作業時間のスピードと効率を大幅に向上させることができる。

ベネッセと共同で

コクヨ中高生のテスト勉強支援

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、東大教授で脳の専門家である池谷裕二氏の監修による「マナビスタイル診断」と、株式会社ベネッセコーポレーションが開発・提供する学習アプリ「Study Cast（スタディキャスト）」を組み合わせ、中高生が自分らしくかつ楽しくテスト勉強に取り組めるよう応援するキャンペーン「テストのためのマナビカタ」を共同で実施している。

キャンペーンでは、コクヨが制作する自分に合った学び方が分かる「マナビスタイル診断」と、ベネッセが開発・提供する学習アプリ「スタディキャスト」を活用し、仲間と一緒に勉強することを通じて、テスト勉強のモチベーションアップを支援する。

2021年3月にコクヨが公開した人気コンテンツ「マナビスタイル診断」は、東京大学薬学部教授で、脳の専門家でもある池谷裕二氏の監修を受けてさらにパワーアップさせた。簡単な質問に答えるだけで、4つのスタイルから自分らしい学び方を診断できる。

また、ベネッセが開発・提供する友達とLIVEで勉強会を開催できるアプリ「スタディキャスト」と連動し、4つの「マナビスタイル」それぞれのオンライン勉強部屋を開設し、同じスタイルの仲間たちと一緒に楽しくテスト勉強をする場の提供を通じて、やる気の継続をフォローする。

秋の見本市の結果速報発表

エコール流通G

エコール流通グループ株式会社（一ノ瀬巌社長、東京都）は、オンラインで開催した「2021年秋の見本市」の結果速報を発表した。

それによると売上高は46億4千百万円（目標比90・1%）と目標未達となったが、販売店からのアクセス数は延べ5200回にのぼり、受注販売会社数1953社（目標比128・1%）、同店数2572店（目標比114・5%）と大幅に目標を上回った。

「Webセミナー」では、出展メーカーのうち28社によるおすすめ商品の解説動画に加え、文具王・高畑正幸氏と、文具プランナー・福島慎子さんの人気商品紹介が好評で、アクセス数は延べ455回を超えた。

また、「イベント館」の閲覧者数は延べ1789人で、サイトにサインインされたうちの36%が来館した。テーマは、①お役立ち最新情報②店頭活性化の提案③旬なトレンドの3つで、合計9本の動画コンテンツを公開。再生回数のランキングは1位「エコール女子おすすめ文具」、2位「文具王・高畑氏セミナー」、3位「福島氏SNSセミナー」、4位「Wi-Fi6とWi-Fi5比較」で、出演者が顔出しで紹介するオリジナル制作動画への関心が高かった。

ナビリオンの最新版を発刊

ライオン事務器

株式会社ライオン事務器（髙橋俊泰社長、東京都）は、オフィス通販「NAVILION（ナビリオン）」カタログの最新版を10月1日に発刊した。

新版の巻頭では、医療・福祉の現場で活躍する衛生・介護用品を特集。口腔ケア用品・入浴用品、就寝用品からレクリエーショングッズまで、各カテゴリーからおすすめ商品を厳選して掲載している。

また、定番掲載品「メーカー直送オフィスファニチュア」に新商品を追加し、品揃えを充実。新規取扱品では、幅700㎜のスリムな収納庫「ELANSAスチール収納庫」のほか、自由な色の組み合わせが可能な「ELANSAパネルスクリーン」、オプションで網棚の取り付けが可能な「LEOスタッキングチェアー」など、オフィスの利便性を高めるアイテムが加わった。

Web上では、書類溶解サービス「Webメルティ」をスタート。簡単な注文手続きで、大量の書類や機密文書を安心・安全に処分することができる。

ナビリオンについての問い合わせ、新規申し込みはナビリオン・コールセンター（フリーダイヤル）0120・422・003（受付時間）月曜～金曜日9時～18時（土日祝日・夏期休業・年末年始を除く）

発刊したカタログ

パルコ紙博

3会場を巡回

株式会社パルコは、「紙博」を運営する手紙社とタイアップしたオリジナルキャラバン「ちいさな紙博～旅する手紙社～at パルコ」を10月～12月にかけて開催、仙台・札幌・名古屋を巡回する。

巡回展では、新たな紙もののムーブメントを起こす作り手たちの表現を感じる紙ものや文房具に加え、テキスタイル、クラフト、おいしいものを詰め込み、仙台・札幌・名古屋パルコの3会場を巡る。

各会場の日程は次の通り。

仙台パルコ＝10月22日～31日、本館6F・スペース6、札幌パルコ＝11月19日～28日7F・スペース7、名古屋パルコ＝12月10～19日、東館B1F・イベントスペース。

1月26、27日にマイドーム大阪でOGBS

オーダーグッズビジネスショー実行委員会（ゲンダイ出版内）は、国内で唯一のハンコとスタンプ、ウエアプリント、オリジナル&SPグッズに特化した展示会「オーダーグッズビジネスショー（OGBS）2022大阪」を1月26、27日に大阪・本町のマイドームおおさか1階で開催する。

オーダーグッズビジネスショーは、①ハンコ・スタンプ②オリジナルグッズ・SPグッズ③ウエアプリントの代表的な3カテゴリーをはじめ、レーザー加工や厚物プリント、看板・サインなど様々な商材と情報を一堂に集め、バイヤーと出展社様が交流する場を提供する。

来場者のほとんどが関連する小売店や工場、商社で構成される、BtoBメインの展示商談会。

出展対象者は印章、軽印刷、ウエアプリント、レーザー加工、厚物プリント、各種下請けなど、オーダーグッズに関わるあらゆる業種。また、オリジナルグッズ製造業者とクリエイターが出会う場として、東京開催で好評を得たクリエイターゾーンも設置する。

公式サイト＝https://ogbs.jp/

2年連続で中止

大阪文交倶楽部例会

大阪の生産、卸、小売の各企業で構成する大阪文交倶楽部（志方弘嗣代表世話人）は、毎年春と秋に日帰り旅行を開催して3者の交流、懇親を深めているが、緊急事態宣言が解除されたものの、大阪の感染者が国の指標を上回って、安心できる人数になっていないことや感染の再拡大を避けるため当番幹事一同と代表世話人協議の結果、会員の感染防止を最優先して秋の旅行を中止することを決めた。

この日帰り旅行は2年連続で中止となっていることから会員には返礼品を贈る予定にしている。また、1月の総会は状況を見ながら改めて案内するという。

新たなワークスタイル

実証実験に関する連携協定を締結

コクヨと熊本市

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）と熊本市（大西一史市長）は、新たなワークスタイルの実証実験に関する連携協定を10月6日に締結した。

連携協定締結に至った背景について「熊本市では、2016年に発生した熊本地震以降、前例にとらわれることなく、社会変化や市民ニーズを的確に捉え、行政サービスの質の向上を図る市役所改革を推進している。また、コクヨでは50年以上前からオフィスでの働き方を考え、実践し、官民問わず働き方改革の支援を行ってきた。こうした中、新型コロナウイルスの感染拡大やデジタル化の進展、行政のDX推進等により、行政オフィスの在り方は大きな変革期を迎えている。『行政オフィスにおける新たな働き方』という共通課題を、両者が持つリソースを活かし、実証実験を行うことで解決に繋げ、今後の自治体オフィスの新たな運用方法を見出していくことを目的に協定を締結した」としている。

連携協定締結式の模様

実証実験の内容は次の通り。

熊本市役所本庁舎6階の一部にモデルオフィスを開設。モデルオフィスは「行政オフィスにおける新たな働き方」を熊本市とコクヨが協働し企画したもので、それぞれ次の役割を担う。

①場所の提供、働き方の実証トライアル（熊本市）②最新の事務機器の設置と実証結果の分析（コクヨ）。

主な実施内容は①自席を持たないグループアドレスの導入②ウェブ会議や集中して業務が可能な新たなワークプレイスの導入③ハイブリッドワーク等、新たなワークルールの導入③モニターや共有ツール活用等によるペーパーレスの徹底。

期待する効果は①生産性を高めることによる市民サービスの向上②活発なコミュニケーション促進によるイノベーションの創出③新たなワークプレイスの有効性、実現性検証④テレワークが日常となる働き方の浸透⑤ペーパーレスやウェブ会議の更なる推進⑥職員の改革マインドの醸成等。

期間は2021年10月6日～2022年2月28日。

文房具屋さんドットコム

文具検定問題集X発刊

有限会社文房具屋さんドットコムは、2010年に「文具検定問題集I」を発行し、今年で第10集となる「文具検定問題集X」をこのほど発行した。

新型コロナウイルスの感染が昨年1月に日本国内で感染確認されて以降、またたく間に全国に広がり、ライフスタイルやワークスタイルに大きな変化をもたらした。また、温暖化をはじめとする深刻な環境問題への関心も非常に高まっている。

このような環境変化の中で発刊した「文具検定問題集X」では、文具に関連したポジティブな事象として注目し、知ってもらいたい下記の7つのトレンドを取り入れて問題を作成、表紙もその7つのトレンドに関連した商品でデザインされている。

出題項目は①巣ごもり消費で好調な「おうちで楽しむ文具」②コロナ禍で一気に進んだリモートワークをサポートする「テレワークに便利な文具」③ICT教育が進む「GIGAスクール対応の文具」④3密回避で人気のアウトドアレジャーに活用できる「アウトドア文具」⑤暮らしの中で目にする「文具メーカーの感染対策商品」⑥地球環境を守るサステナブルな世の中を実現する「SDGsな文具」⑦盛り上がりを見せる昭和レトロブーム「昭和生まれの文具」。

また、後半のページでは、文具・紙製品の一般知識を問う「文具をもっと広く、深く、知ろう！」から、「筆記具」「筆墨」「手帳」「ノート」「紙」「ロングセラー商品」「文具業界」のジャンルごとに問題を出題されている。

出題分野は歴史や文化から雑学まで、多岐にわたり、文房具全般について広く深い知識を得ることができる。

A5判、フルカラー、132ページ。800円（税別）。

引き続き続き、問題集Ⅵ～Ⅸも発売中。Ⅰ～Ⅴは廃版となっている。

文房具屋さんドットコムのホームページから購入出来る。URL＝https://www.bunbouguyasan.com/